

# 第13回 岐阜県CSF有識者会議

日時：令和5年2月6日（月）

10時30分～12時

場所：岐阜県庁6階 特別会議室

（議 題）

1. 農場を守る対策

2. 野生いのしし対策

3. その他

- シビエ利用再開後の現状と課題
- 「いのししまップぎふ」の改善

# 第13回岐阜県CSF有識者会議 名簿

## ■委員

(50音順、敬称略)

青木 博史	日本獣医生命科学大学 獣医学部 教授	欠席
浅井 鉄夫	岐阜大学大学院 連合獣医学研究科 教授	
石黒 利治	(公社)岐阜県獣医師会 会長	
伊藤 貢	(有)あかばね動物クリニック獣医師 (一社)日本養豚開業獣医師協会 理事	Web
江口 祐輔	麻布大学 教授 フィールドワークセンター長	Web
小寺 祐二	宇都宮大学 農学部 雑草管理教育センター 准教授	欠席
只野 亮	岐阜大学 応用生物科学部 生産環境科学課程 応用動物科学コース 動物ゲノム多様性学分野 准教授	欠席
平田 滋樹	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門 動物行動管理研究領域 動物行動管理グループ 上級研究員	Web
山本 健久	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 越境性家畜感染症研究領域 疫学・昆虫媒介感染症グループ長補佐	Web

## ■ワーキンググループアドバイザー

迫田 義博	北海道大学大学院 獣医学研究院微生物学教室 教授	Web
-------	--------------------------	-----

## ■オブザーバー

永田 知史	農林水産省 消費・安全局 動物衛生課	Web
吉野 毅	岐阜県養豚協会 会長	
大野 恵章	(一社)岐阜県猟友会 会長	

## ■県関係

古田 肇	知事
河合 孝憲	副知事
雨宮 功治	農政部長
渡辺 正信	環境生活部長
杉下 尚	農政部次長

# 議題 1 農場を守る対策

---

# (1) 飼養豚のワクチン接種による抗体付与状況

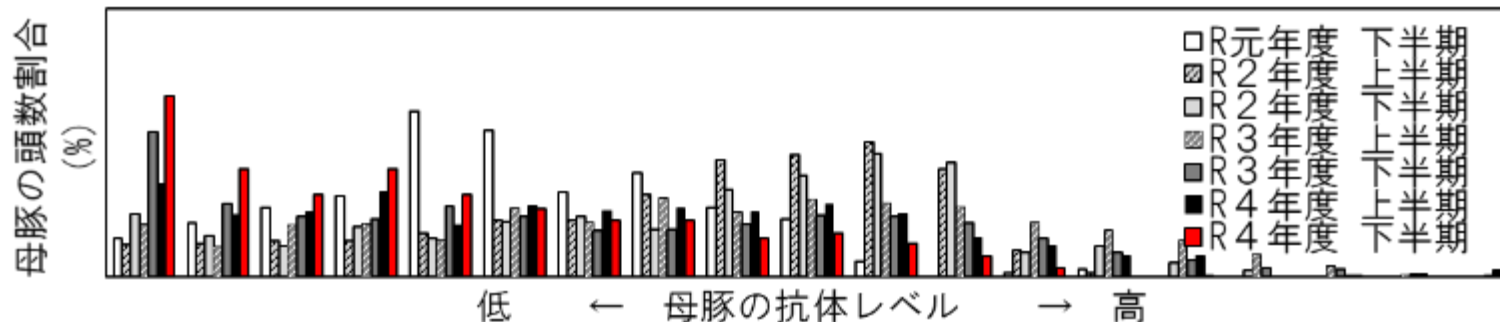
(令和5年1月20日時点)

- 令和元年10月の初回接種以降、ワクチン接種と定期的な抗体検査を実施。
- 農場ごとに母豚の抗体レベル（免疫付与における抗体量の水準）を確認したうえで、接種時期の前倒しを含め、その農場に適した時期に接種を実施。
- 母豚は80%以上の免疫付与率を維持しているが、抗体レベルにバラツキがあり、低い個体の割合も増加。
- 肥育豚は、50%前後と低い状況。と畜場出荷時点の検査では80%以上。

## <免疫付与率の推移>

検査時期	母豚	肥育豚	
R元年度 下半期	96% (223/233)	99% (387/390)	と畜場出荷時点
R2年度 上半期	95% (377/395)	69% (394/574)	
R2年度 下半期	93% (343/369)	49% (389/790)	83% (334/401)
R3年度 上半期	94% (583/620)	51% (410/810)	96% (333/347)
R3年度 下半期	84% (521/622)	54% (418/775)	93% (272/292)
R4年度 上半期	90% (595/663)	63% (496/788)	93% (290/312)
R4年度 下半期	80% (312/391)	52% (225/434)	89% (317/355)

## <母豚の抗体レベルの分布とその推移>



※抗体の検査方法はELISA検査による。(と畜場出荷時点は中和試験による結果を含む。R2年度は、ELISA陽性及び中和抗体価2倍以上を陽性、R3年度からは、ELISA S/P値0.05以上及び中和抗体価1倍以上を陽性と判定)

## (2) 発生農場等の再開状況

- 今年度、1農場が出荷を再開。(令和4年7月8日)
- その結果、豚熱発生農場等22農場のうち16農場が再開。飼養頭数も、当時の87.8%に回復。  
※令和4年10月には、105,359頭を飼養。(当時の91.0%)

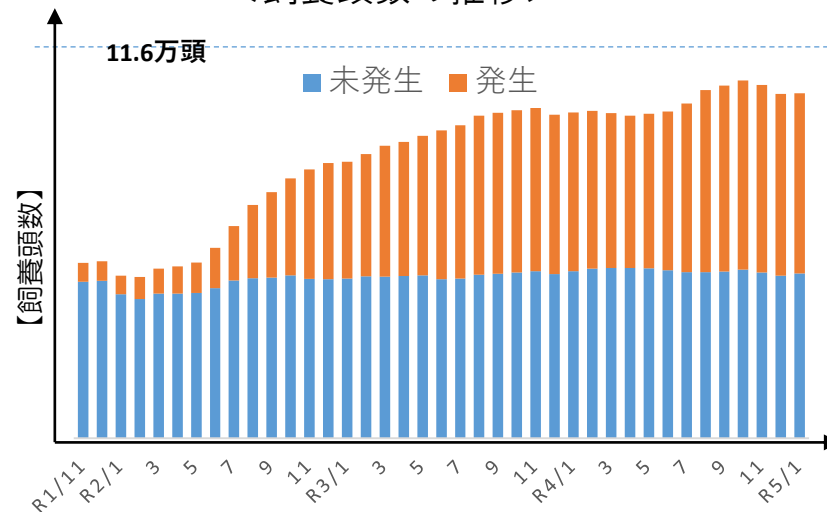
<県豚熱発生等農場の再開状況(R5.1.1現在)>

豚熱発生 農場等				再開率
	出荷再開	再開未定	廃業	
22農場	16農場	3農場	3農場	72.7%

<県飼養頭数の状況(R5.1.1現在)>

豚熱発生前	現在の飼養頭数	回復率
115,806頭	101,632頭	87.8%

<飼養頭数の推移>



### (3) 令和5年度の「農場を守る対策」

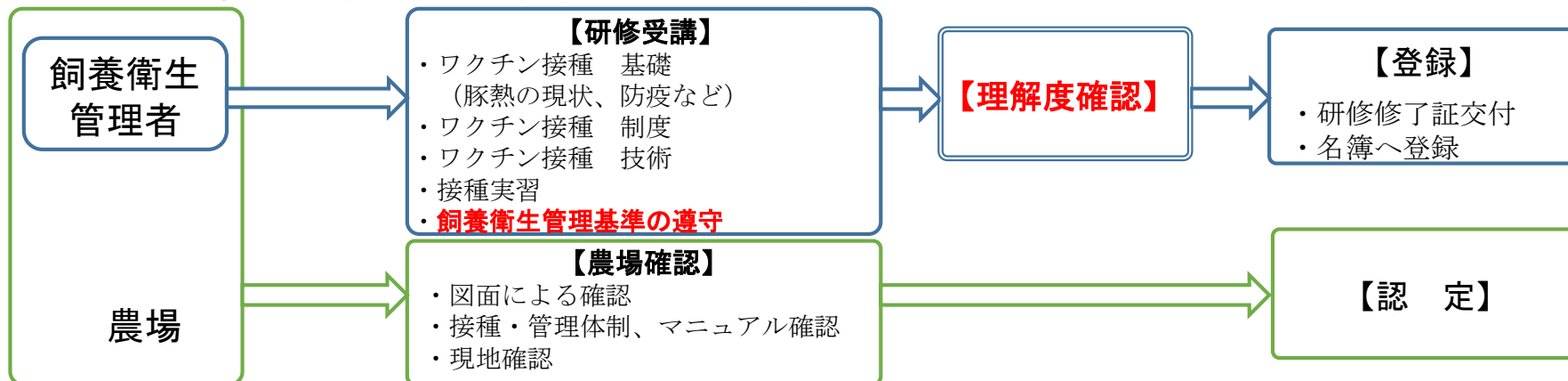
#### ① きめ細かな豚熱ワクチンの接種

- 引き続き、農場ごとに母豚の抗体レベルを確認したうえで、接種時期の前倒しを含め、その農場に適した時期に接種を実施。
- 従来の家畜防疫員や知事認定獣医師に加え、新たに登録飼養衛生管理者による接種体制を整備。
- 一括追加接種（※）とあわせ、豚へのワクチン接種をきめ細かに実施。

※令和4年10月の制度改正により、抗体レベルのバラツキが大きい母豚群から新たに出生する子豚への追加接種も可能となった。本県では国に協議のうえ、12月から実施（現在9農場で実施中）。

#### 【登録飼養衛生管理者によるワクチン接種への対応】

- 農場の飼養衛生管理者も豚熱ワクチンを接種できるよう国が制度改正（R4.12.23）。
- 本県では、令和5年4月1日から運用開始予定。
- 国が示す研修内容を基本としながらも、「飼養衛生管理基準の遵守」に関する内容を拡大。また、理解度確認のプロセスを上乗せ。
- 接種開始後には、接種の都度、報告する仕組みとし、ワクチン接種に係る適時適切性を担保。



#### 【今後のスケジュール】

- ・ 2月中旬 研修など本県における運用方法の説明会実施。希望農場を確認。
- ・ 2月下旬から 飼養衛生管理者ワクチン接種研修会を開催。農場のワクチン管理体制などの確認。
- ・ 4月1日 「登録飼養衛生管理者によるワクチン接種」の運用開始。

- ・ 現時点で15農場が登録飼養衛生管理者による接種を希望
- ・ 知事認定獣医師による接種とあわせ、県内飼養頭数の約7割に相当

※現在、知事認定獣医師は4農場1研究施設で5名。

# (3) 令和5年度の「農場を守る対策」

## ② 養豚農家への情報発信と指導

- 「家畜衛生情報」などの従来の情報提供方法とあわせ、WEBや動画配信などによる情報提供・農場指導を実施。

### (令和4年度 実績)

- 「豚熱ワクチン接種に関する講習会」をWEBで開催。(9/14)
- 「養豚専門獣医師の知見を踏まえた飼養衛生管理」等の動画を養豚農家向けに配信。

### (令和5年度 計画)

- 「家畜衛生情報」による注意喚起・情報提供を実施。
- WEB会議ツールを利用した農場指導なども検討。
- 「飼養衛生管理者ワクチン接種研修会」などの動画コンテンツを配信。



<飼養衛生管理に関する配信動画>

## ③ 防疫訓練等の実施

- 農場における豚熱やアフリカ豚熱の発生、野生いのししにおけるアフリカ豚熱感染発生に備え、情報伝達や防疫措置などの机上訓練を実施。
- 農場への注意喚起のため、石灰による一斉消毒を実施。

### (令和4年度 実績)

- 異常通報から防疫措置計画案の策定までの机上演習を実施し、関係者の情報共有や資料作成方法などを確認。(4/25)
- 県・市町村職員、関係団体、生産者、建設業協会員などが参加する「移動式焼却炉を活用した防疫演習」を実施。(10/12)
- 消石灰を県下の全養豚場に配布し、一斉消毒を実施。(9/1～、3/1～(予定))

### (令和5年度 計画)

- 4月に机上訓練を実施予定。
- 野生いのししにおけるアフリカ豚熱発生に備えた防疫演習等を実施。(詳細は、「野生いのしし対策」に記載。)
- 9月に一斉消毒を実施。野生いのししの感染確認状況により、追加実施。

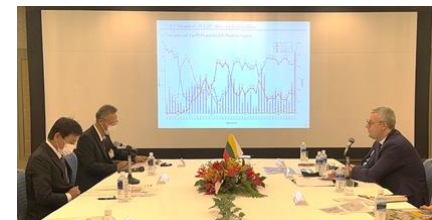
### (3) 令和5年度の「農場を守る対策」

#### ④ 豚熱・アフリカ豚熱に関する情報収集

- 本県の対策の参考とするため、CSF有識者会議委員や海外の研究者等との意見交換など、豚熱、アフリカ豚熱に関する調査研究情報などを収集。

(令和4年度 実績)

- CSF有識者会議委員と意見交換。(随時)
- 海外の最新事情や対策の技術情報を意見交換。  
(韓国鄭博士(7/4)、リトアニア国家獣医局長(10/28)  
ドイツVos博士(経口ワクチン散布)(11/30))



<リトアニア国家獣医局長意見交換>

(令和5年度 予定)

- 様々な機会をとらえ、意見交換などにより情報収集。

#### ⑤ 防疫資材拠点の整備

- 飛騨地域における防疫措置の迅速化のため、令和6年度の運用開始を目指して、飛騨家畜保健衛生所に、防疫資材の備蓄拠点を整備。

#### ⑥ 人材育成

- 家畜保健衛生所職員のスキルアップのため、大学や民間家畜診療施設などに職員を派遣するほか、産業動物獣医師や県職員獣医師の確保に努める。

(令和4年度 実績)

(有)あかばね動物クリニック 1名(8月1日～8月31日)  
宇都宮大学 1名(8月22日～9月21日)  
北海道大学 1名(8月22日～11月18日)

- 11月に研修職員を講師として、「農場の野生いのしし対策」や「農場指導」の研修を家保職員に実施。
- 北海道大学研修において、「農場における豚熱発生リスクに関する疫学的解析、部分的殺処分のシミュレーション解析」を実施。
- 国が主催する家畜衛生講習会等に職員11名が参加。

(令和5年度 予定)

- 大学や民間家畜診療所に3名派遣予定。
- 家畜伝染病講習会にも参加予定。

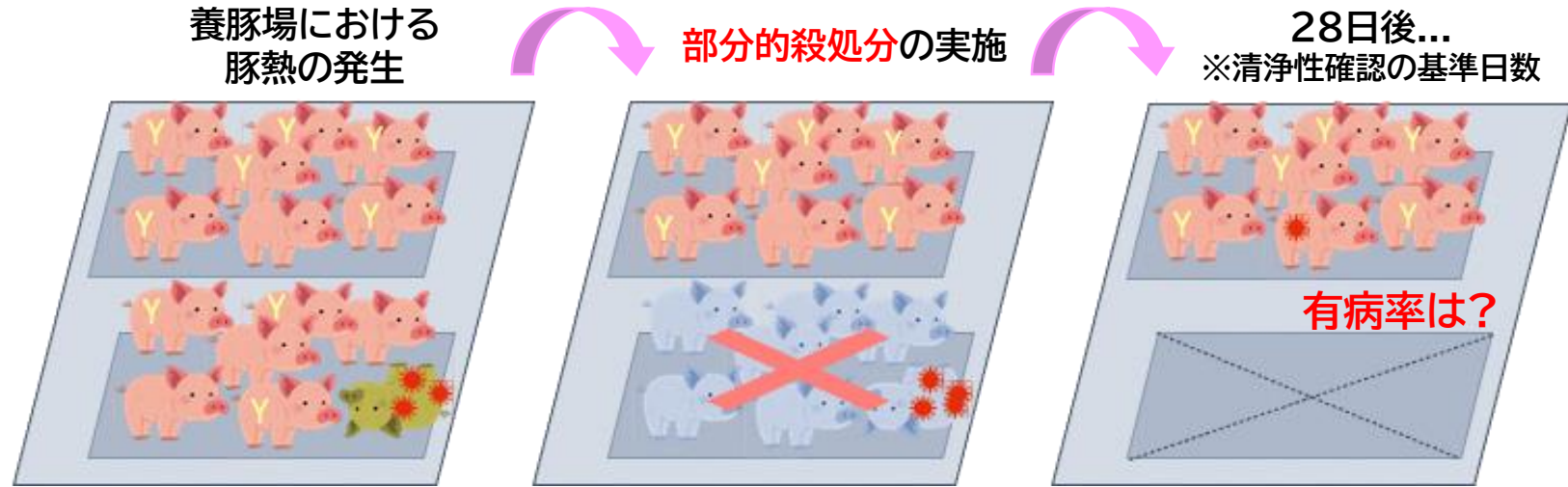


# ● 北海道大学研修の日程 (R4.8.22-11.18)

場所：北海道大学 大学院獣医学院/獣医学部 微生物学教室

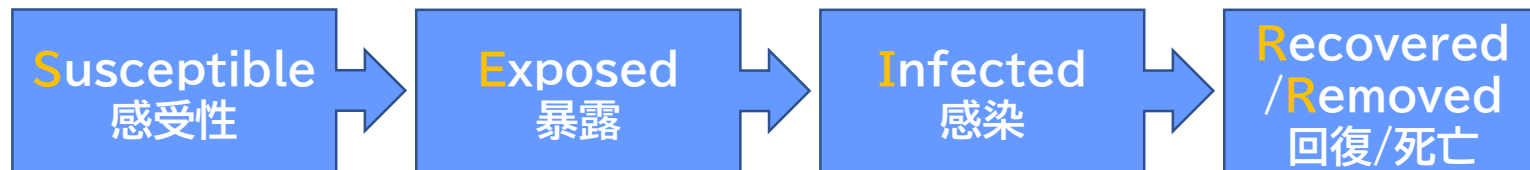
	8月		9月				10月				11月	
	/22	/29	/5	/12	/19	/26	/3	/10	/17	/24	/30	/7
豚熱発生リスクの疫学解析	空間データの作成											
	ArcGISを用いた空間解析											
	空間データを加味したネットワーク解析											
	論文文化に向けたデータ整理、方法等の記述											
部分的殺処分のシミュレーション解析	SEIRモデルの作成											
	パラメータ設定											
	シナリオ検討											
検査手技の獲得等	抗ウイルス薬 CSF感染実験		BVD北海道庁研修				AIVサンプリング@稚内					
	鳥インフルエンザ 診断実習		越境性感染症特論				マーカーワクチン CSF感染実験					
その他	Journal Club				Research Progress Sep.		Research Progress Oct.		Research Progress Nov.			

## ● 目的：部分的殺処分への検討材料となる解析の実施



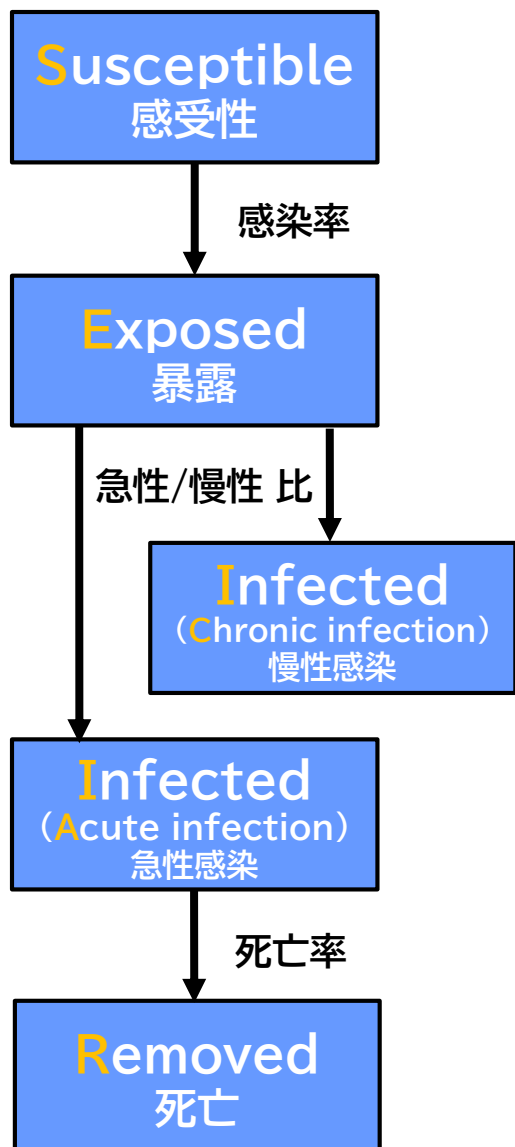
➡ まずは、基礎となる養豚場での“感染動態を表現するモデル”の作成

## ● SEIR コンパートメントモデルの構築



Excelベースでパラメータ設定、結果出力可能なソフトウェア【@RISK】で基礎となるモデルを作成

# ● “豚熱-SEIRモデル” のパラメータ設定



母集団サイズ: 1,000頭

【繁殖】母豚 35% / 肥育豚 15% / 子豚 50%

【肥育】肥育豚 100%

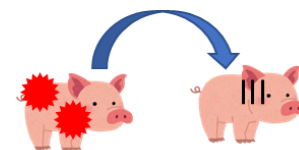
【一貫】母豚 10% / 肥育豚 75% / 子豚 15%



初期暴露個体数: 0.1~1.0% (一様分布)

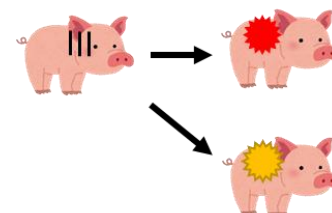
免疫率: 母豚 95% / 肥育豚 80% / 子豚 70%

感染率:  $\beta = 4 (R_0) \times 0.1 (\gamma) = 0.4$  (基準)  
母豚 0.2 / 肥育豚 0.4 / 子豚 0.8



暴露後「感染」に至るまでの日数:

3日 25% / 4日 50% / 5日 100%

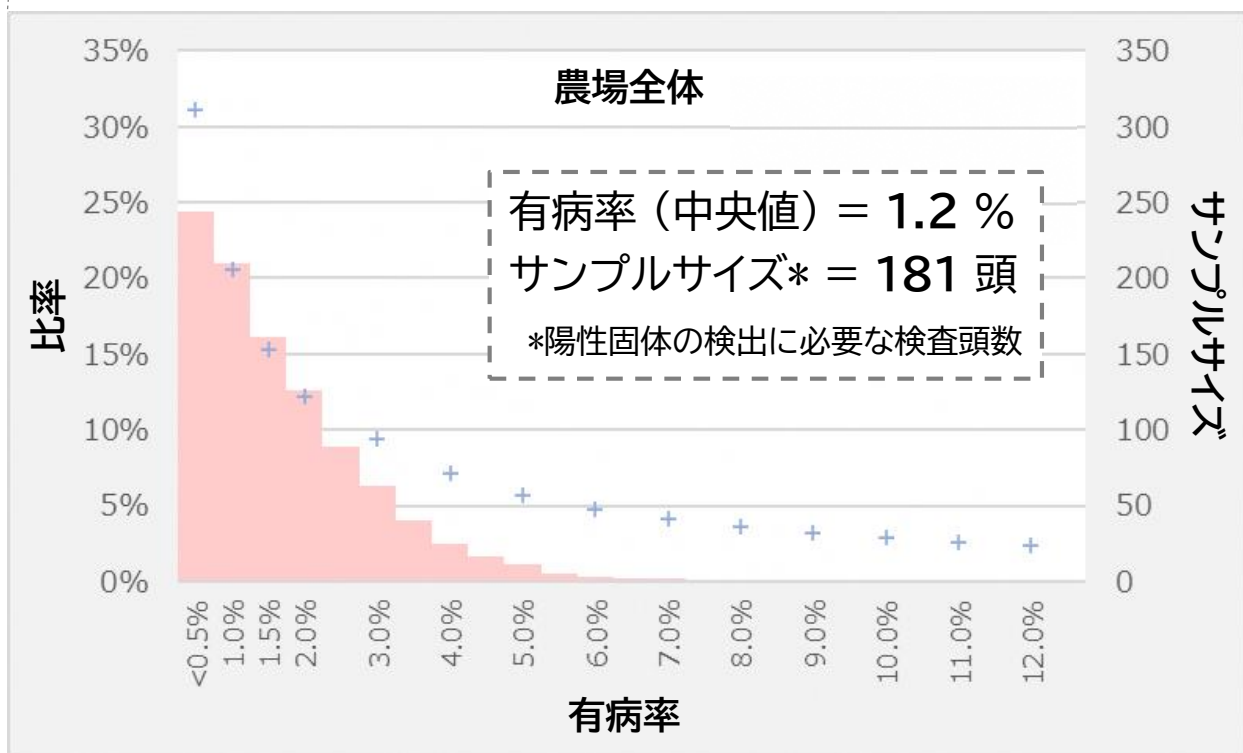
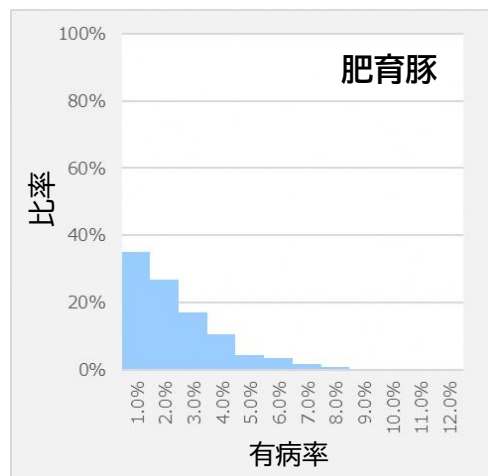
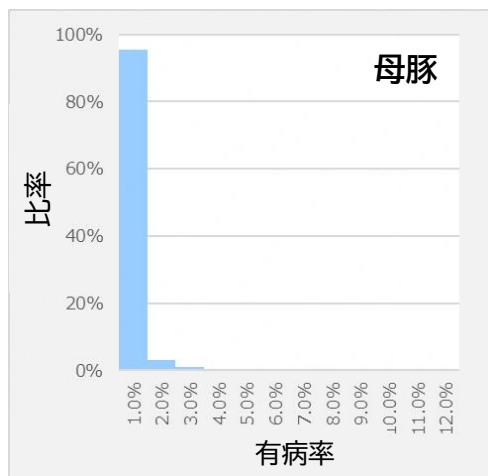


急性 / 慢性感染の比率: 20~80% (一様分布)

死亡率: 100% (急性感染後1~10日) ※慢性感染では 0%

➡ 10,000回反復計算し、“28日後”の有病率を出力、陽性個体の検出に必要なサンプルサイズを計算

● 結果：【一貫農場】・・・母豚（10%）、肥育豚（75%）、子豚（15%）

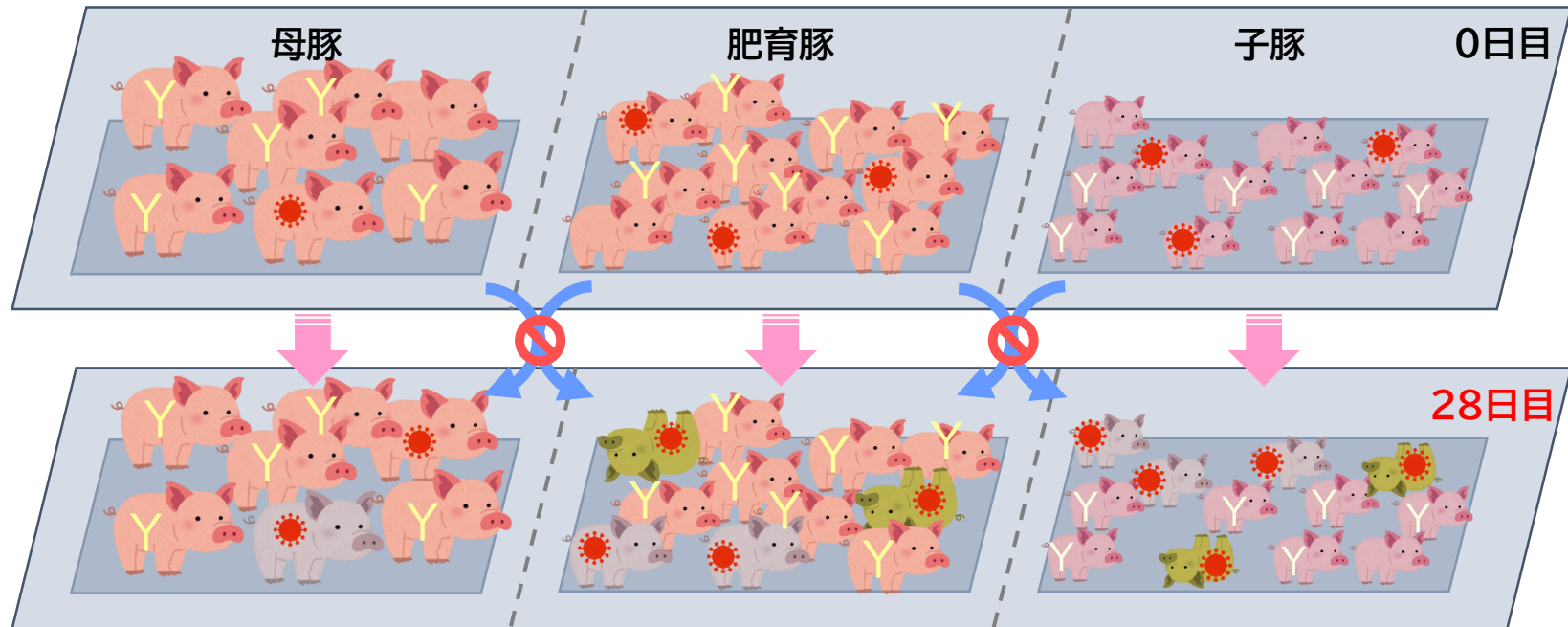


- ・感染動態を模式的に表現
- ・高い免疫率で感染は限定的
- ・子豚飼養比が有病率を左右

## ● 今後の展望と課題

ひとまず、養豚場内での感染動態を表す“基礎的なモデル”が完成

➡ “部分的殺処分のシミュレーション”に向けた改修



- “部分的殺処分”の**対象の検討**が必要
- “豚房”や“豚舎”間の**空間的な位置関係**、**伝播**は考慮していない
- 参考となるデータが乏しい(急性/慢性感染の比率、ウイルス排泄量の違いなど)

課題

➡ より現実的なパラメータ設定と部分的殺処分のシナリオの検討へ

## (参考) ボーノブラウンの再造成

- ・ 県畜産研究所にて県内農場へ譲渡していた種豚を保護し「ボーノブラウン」を再造成。
- ・ 令和5年2月から、「精液」、「種豚」の出荷を再開。
- ・ 当面、週20～40本の精液出荷、年数頭の種豚出荷を予定。

< 県豚熱発生等農場の再開状況(R4.7.8現在) >

時期	精液出荷	種豚出荷
再開 (R5. 2月～R6年度)	20～40本/週	数頭/年
R10年度を目途	140本以上/週	20頭以上/年
従前 (H30. 12月以前)	140本/週	20頭/年



< ボーノブラウンの子豚 >



< 再造成した種豚 >

### 【ボーノブラウン精液等再出荷までの経緯】

- ・ 平成30年12月 県畜産研究所で豚熱が発生。飼養していた「ボーノブラウン」を全頭殺処分。
- ・ 令和元年7月 海津市に「緊急避難豚舎」を整備。  
県内養豚農場へ譲渡していた種豚を保護し、ボーノブラウン再造成を開始。
- ・ 令和2年3月 関市の養豚・養鶏研究部に新たな豚舎の整備を開始
- ・ 令和3年7月 新豚舎の一部が完成。海津市で保護していた種豚を関市に移転し、再造成を実施中。

## 議題2 野生いのしし対策

---

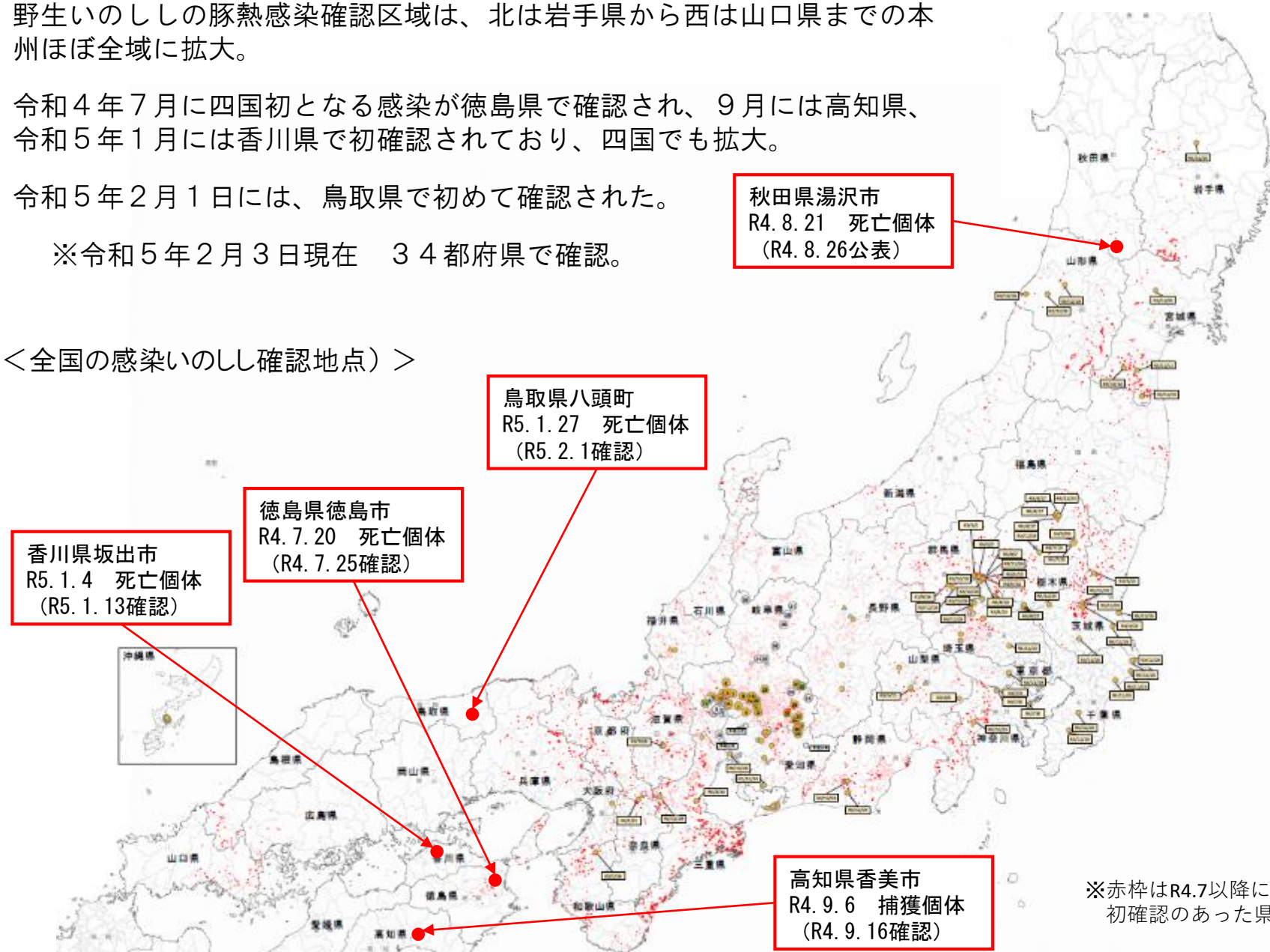


# (1) 全国の感染いのししの現状

- 野生いのししの豚熱感染確認区域は、北は岩手県から西は山口県までの本州ほぼ全域に拡大。
- 令和4年7月に四国初となる感染が徳島県で確認され、9月には高知県、令和5年1月には香川県で初確認されており、四国でも拡大。
- 令和5年2月1日には、鳥取県で初めて確認された。

※令和5年2月3日現在 34都府県で確認。

<全国の感染いのしし確認地点>

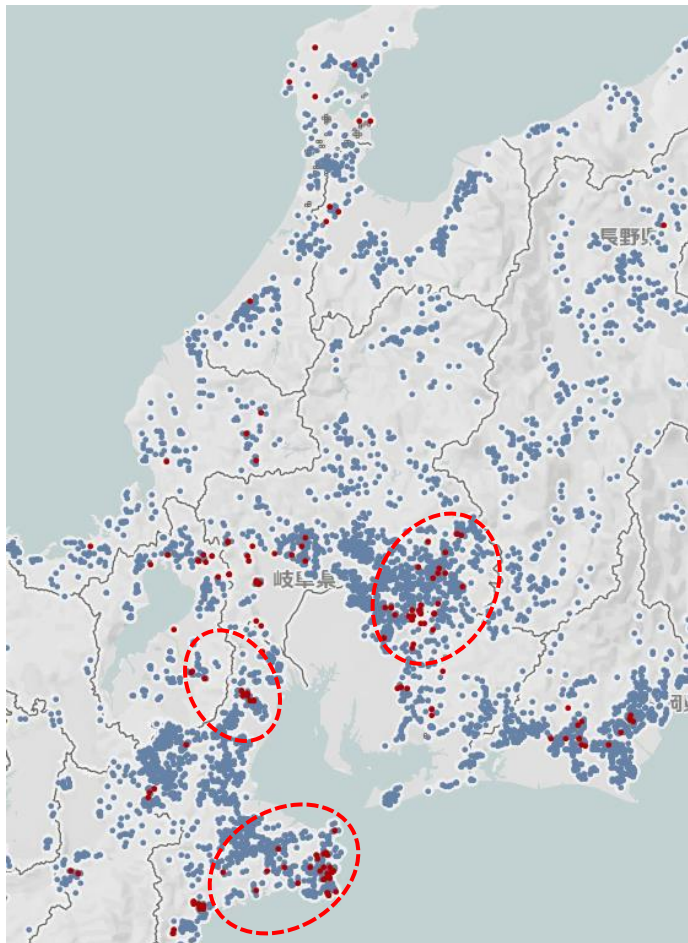




## (2) 近隣県の感染いのししの状況

- 隣接する県でも、継続して感染いのししを確認。
- 特に、愛知県の瀬戸市・豊田市（岐阜県に隣接）で感染頭数が増加。

<近隣県の感染いのしし確認状況(直近6カ月:R4.7.21~R5.1.18)>



県名	陽性(頭)	陰性(頭)	検査数(頭)	陽性率
富山県	2	343	345	0.6%
石川県	8	446	454	1.8%
福井県	5	297	302	1.7%
長野県	1	612	613	0.2%
愛知県	13	550	563	2.3%
三重県	77	3,133	3,210	2.4%
滋賀県	14	359	373	3.8%
岐阜県	51	1,761	1,812	2.8%

### (3) 県内のいのししの現状

#### ① 生息頭数

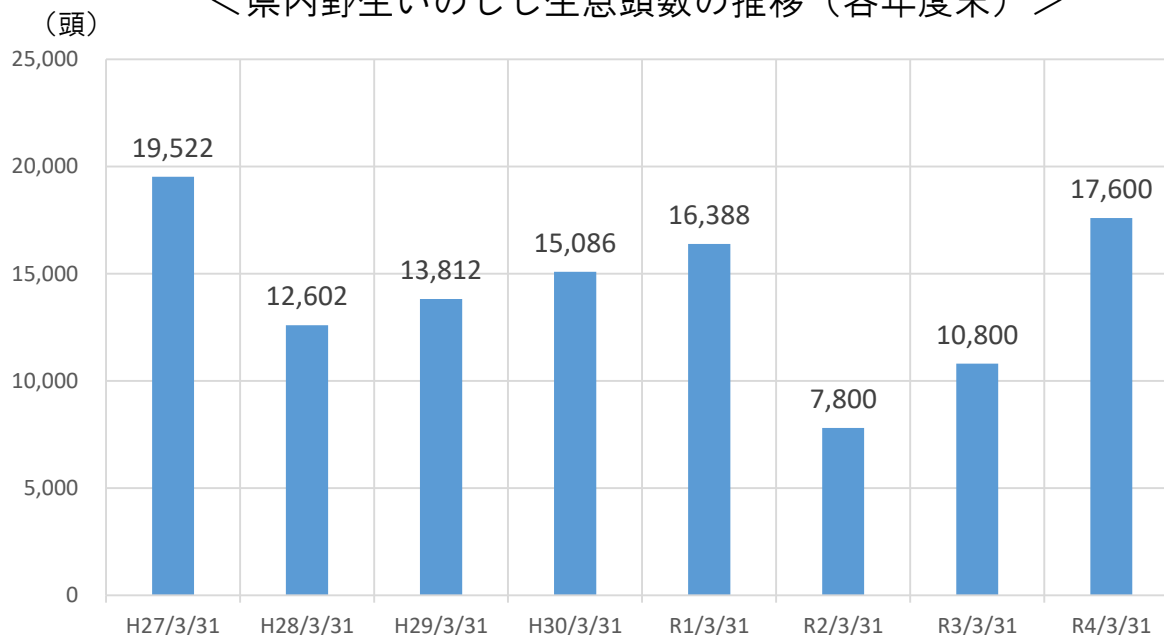
- 平成30年度末当時、約1.6万頭生息していたとされる野生いのししは、豚熱まん延などの影響により、令和2年度当初までに半減。
- 令和4年度調査の結果、豚熱発生前の水準まで回復。

[H31.3 末：16,388 頭] → [R2.7 調査：17,132 頭] → [R3.7 調査：18,548 頭] → [R4.7 調査：34,255 頭]

(R2.3 末推計値：約7,800頭) → (R3.3 末推計値：約10,800頭) → (R4.3 末推計値：約17,600頭)

- 特に、海津市、垂井町、養老町及び東濃地域（多治見市、土岐市、瑞浪市）で密度が高い。

＜県内野生いのしし生息頭数の推移（各年度末）＞

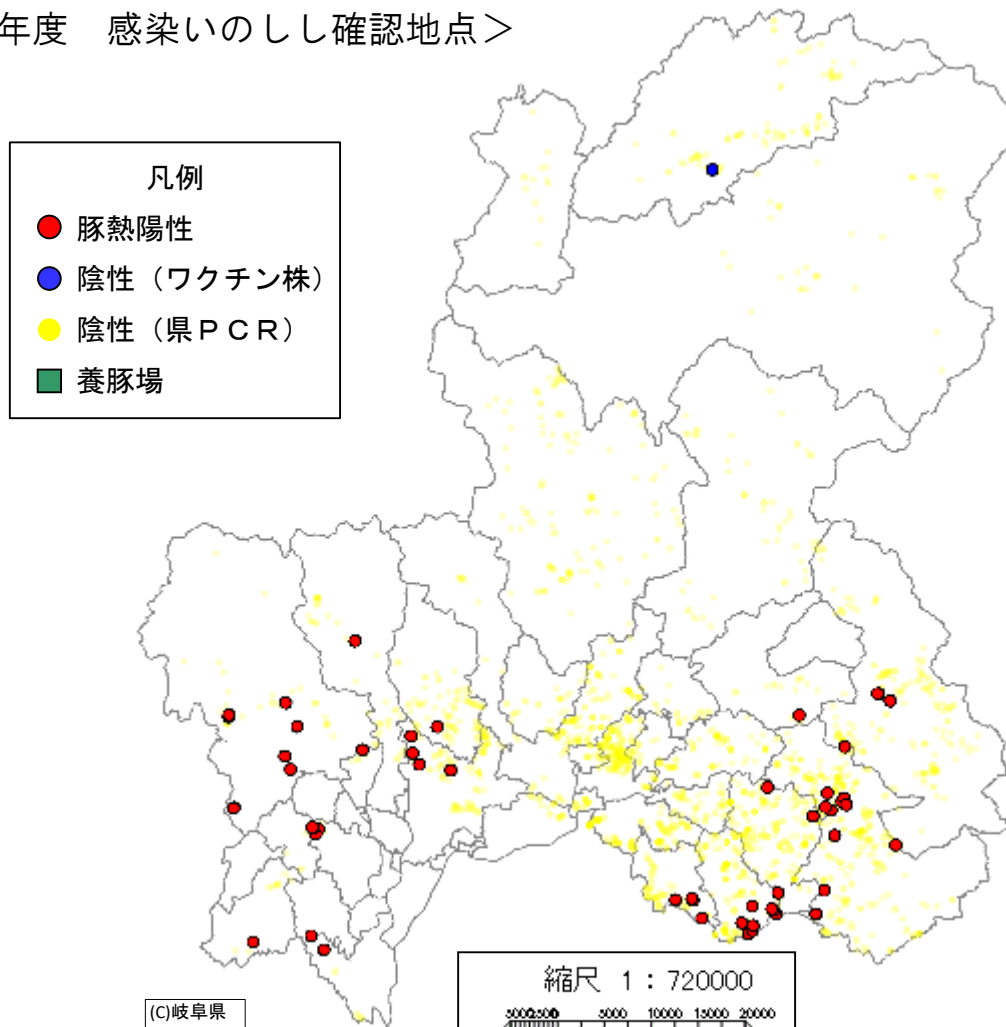


### (3) 県内のいのししの現状

#### ② 感染状況

- 令和4年度は、これまでに、前年度の2倍を超える63頭の感染を確認。
- 特に、県境に位置する海津市、養老町、多治見市、土岐市、恵那市や、これまで検体が少なく実態が把握できていなかった揖斐地域での感染を確認。

<令和4年度 感染いのしし確認地点>

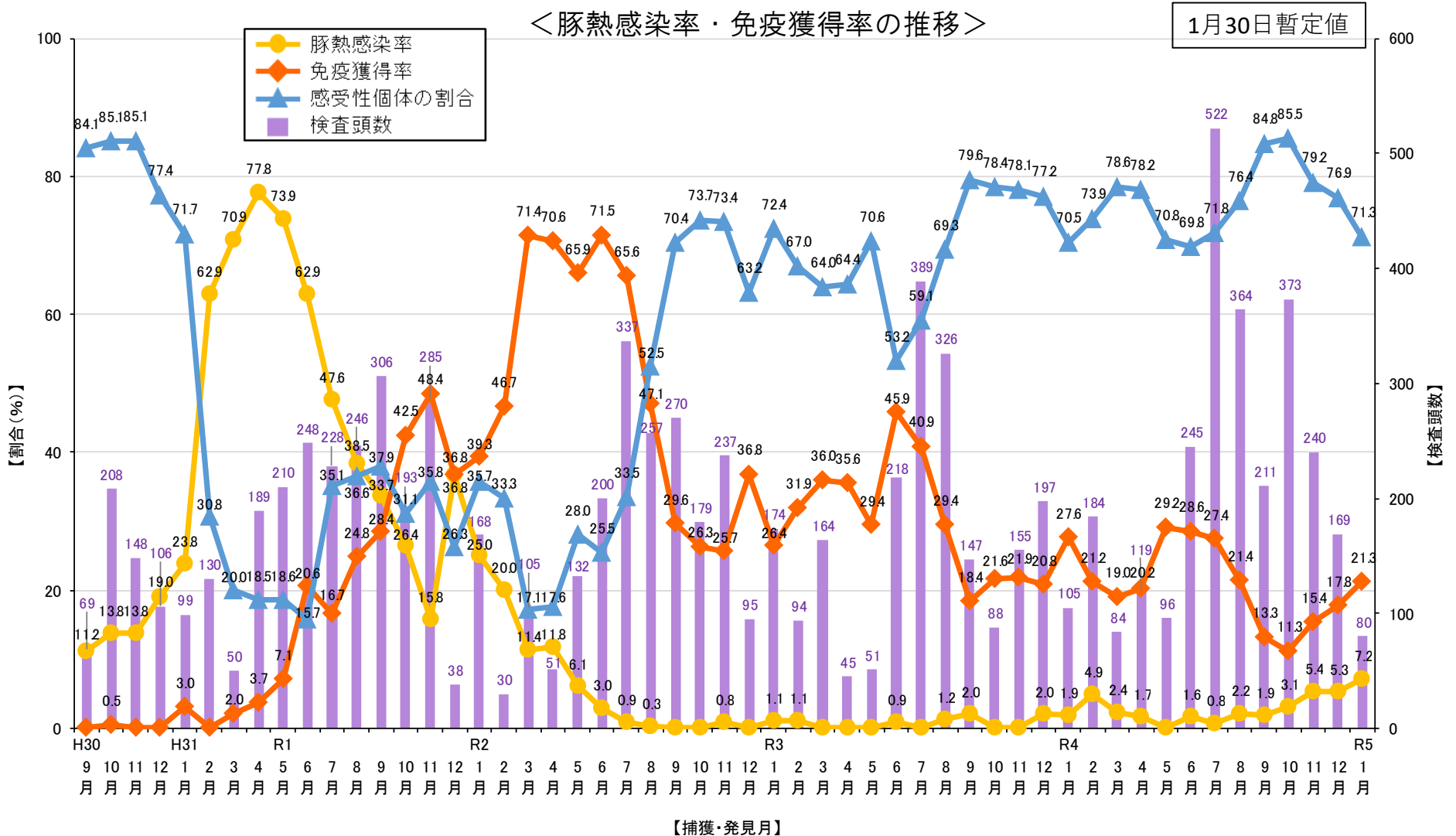


市町村	頭数
岐阜市	4頭
山県市	2頭
本巣市	2頭
大垣市	5頭
海津市	1頭
養老町	1頭
揖斐川町	11頭
大野町	1頭
白川町	1頭
多治見市	4頭
土岐市	12頭
瑞浪市	2頭
恵那市	12頭
中津川市	5頭
合計	63頭

# (3) 県内のいのししの現状

## ③ 免疫獲得率

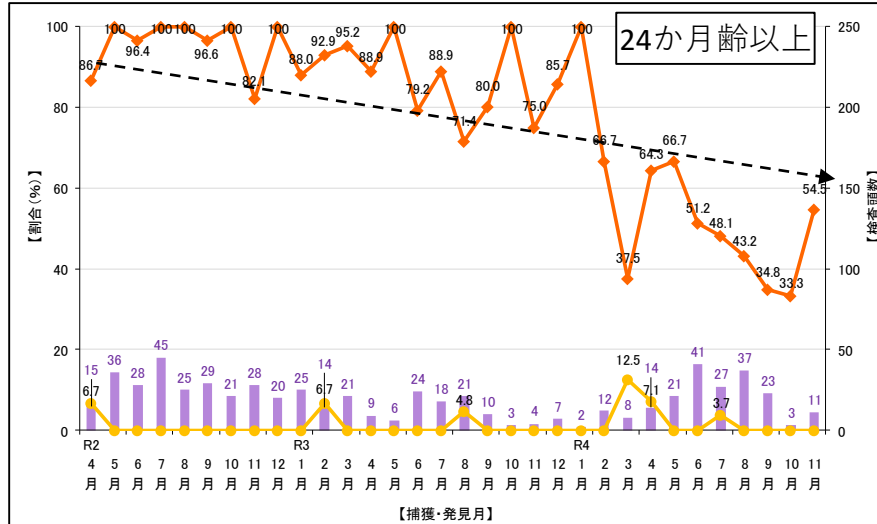
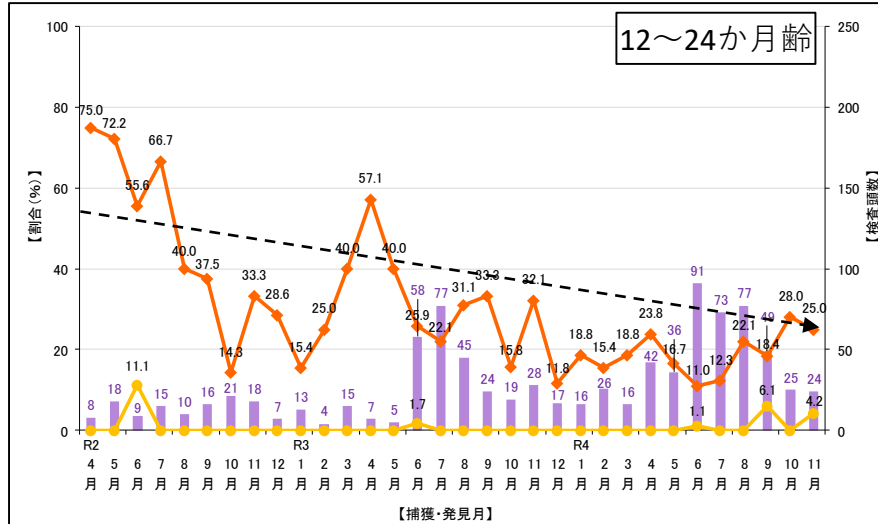
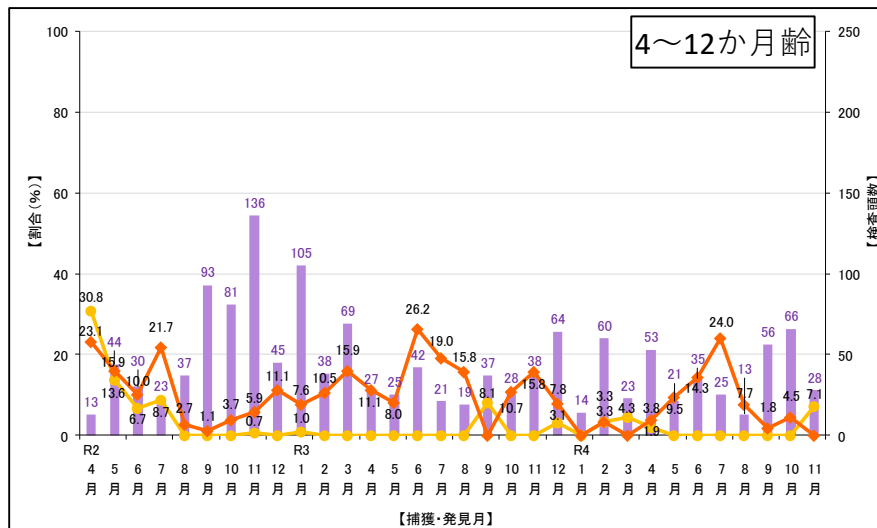
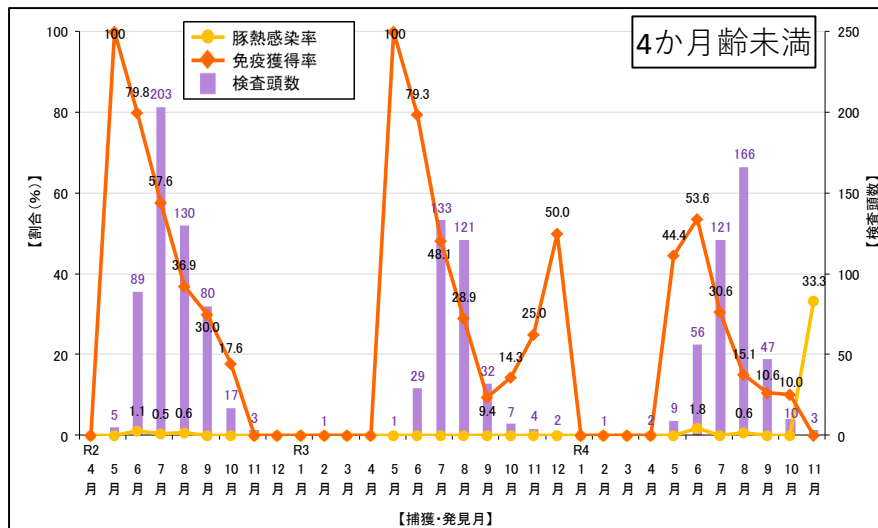
- 令和3年度の移行抗体消失後、20%から30%程度で推移していたが、令和4年9月以降は15%前後で推移。



### (3) 県内のいのししの現状

- 24か月齢以上で免疫獲得率が減少。これに伴い、生まれてくる子の移行抗体による免疫獲得率も減少。
- 12から24か月齢、24か月齢以上の免疫獲得率減少が、全体の免疫獲得率の推移にも影響。

#### <月齢4区分別 豚熱感染率・免疫獲得率の推移>



## (4) 令和5年度の「野生いのしし対策」(野生いのししの捕獲強化)

### ① 捕獲の実績

- 豚熱発生前は1万頭以上、豚熱発生後は、6千頭から7千頭を捕獲。
- 今年度は有害捕獲の捕獲頭数が増加。

＜平成29年度以降の野生いのししの捕獲頭数＞

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4(12月末時点)
調査捕獲 (その他捕獲を含む)	65	552	1,574	2,502	1,468	1,473
有害捕獲	7,052	8,310	3,586	2,368	2,767	3,658
狩猟 (R1は広域捕獲)	5,056	2,114	720	1,948	1,970	(終了後集計)
合計	12,173	10,979	5,880	6,818	6,205	5,131

### ② 捕獲目標頭数

豚熱感染拡大を抑制できる生息頭数に減少させるため、  
捕獲目標頭数 年間 13,000頭 とする。

- 令和4年度生息頭数推計調査結果から、生息頭数(密度)は地域によって偏りがあることが分かっているため、これを反映した地域別の目標頭数を設定。

#### 【捕獲目標頭数(案)の考え方】

- 令和5年度当初(R5.4.1)の生息頭数を15,000頭と推計。
- 出生頭数や死亡頭数を推計したうえで、令和5年度末(R6.3.31)の生息頭数が10,800頭(※)となる捕獲圧を、「年間13,000頭捕獲するペース」と算出。  
※豚熱感染拡大を抑制できていたR3.3末の生息頭数(R3調査からの推計値)

「生息頭数推計のための仮定」

- ・ オス：メス＝1：1
- ・ メスの54%(2歳以上)が平均4頭の子を4～7月に出産(年1回)
- ・ 1歳までに5割が、2歳までに8割が自然死(捕獲による死亡と一部重複)

## (4) 令和5年度の「野生いのしし対策」(野生いのししの捕獲強化)

### ③ 捕獲の対策

- 県が実施する「調査捕獲」を引き続き実施。
- 市町村が実施する「有害捕獲」への支援を引き続き実施。
- 夏期は「有害捕獲」、狩猟期は「狩猟」を中心として捕獲を進め、捕獲頭数が少ない春期(4～5月)及び冬期(2月～3月)は調査捕獲にて補完。
- 豚熱陽性個体が確認された地域は、調査捕獲期間の延長などにより、集中捕獲を実施。
- 捕獲者の労務負担を軽減するため、捕獲通知システムの導入を引き続き取り組む。

### ④ 検体の確保

- 県下全域でサーベイランスを継続。
- 県が実施する調査捕獲に加え、市町村や県猟友会と連携し、有害捕獲や狩猟からの血液検体を確保。

年度	R2	R3	R4(12月末時点)
調査捕獲	1,891件	1,013件	1,022件
有害捕獲	85件	661件	990件
狩猟	245件	305件	312件
合計	2,221件	1,979件	2,324件

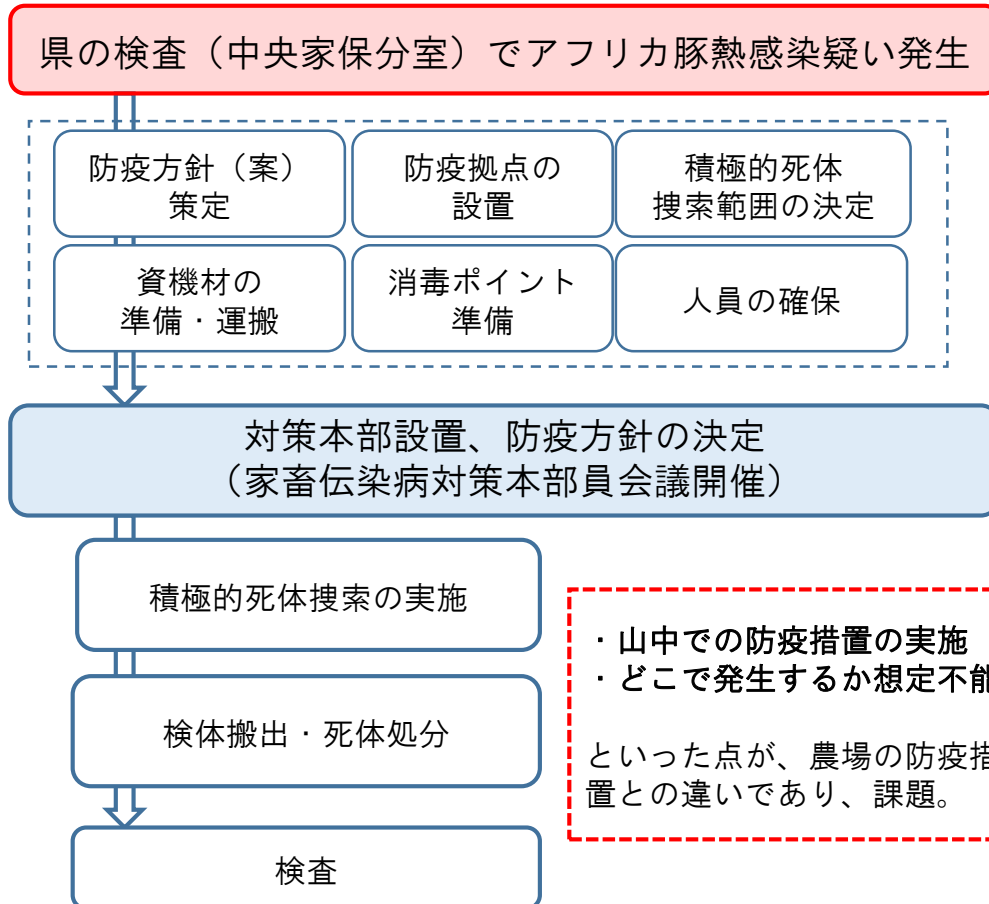


# (4) 令和5年度の「野生いのしし対策」(野生いのししの捕獲強化)

## ⑤ 野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫体制の構築

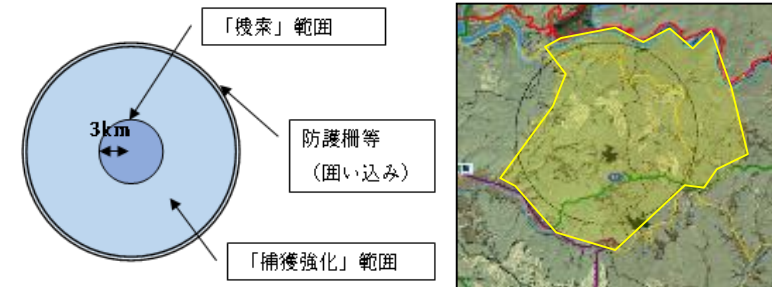
- 野生いのししのアフリカ豚熱確認を想定し、国において作成中の基本方針(案)をもとに、本県の防疫体制を構築。
- 搜索範囲の決定や対策拠点の設置、本部員会議の開催などについて、机上演習を実施。
- 関係団体と連携し、現場での対応を確認。

### <野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫対応のフロー>



机上演習にて役割分担や手順を確認

農場の防疫措置計画でリストアップしてある消毒ポイント、集合場所、資機材などを活用することを想定  
搜索範囲決定手順等を確認



<対策の種類と範囲のイメージ>

県猟友会等と連携し現場での対応を確認

1日でどれくらいの範囲が可能か、搬出をどのように行うかなどを現場で確認。



## (4) 令和5年度の「野生いのしし対策」(経ロワクチン散布)

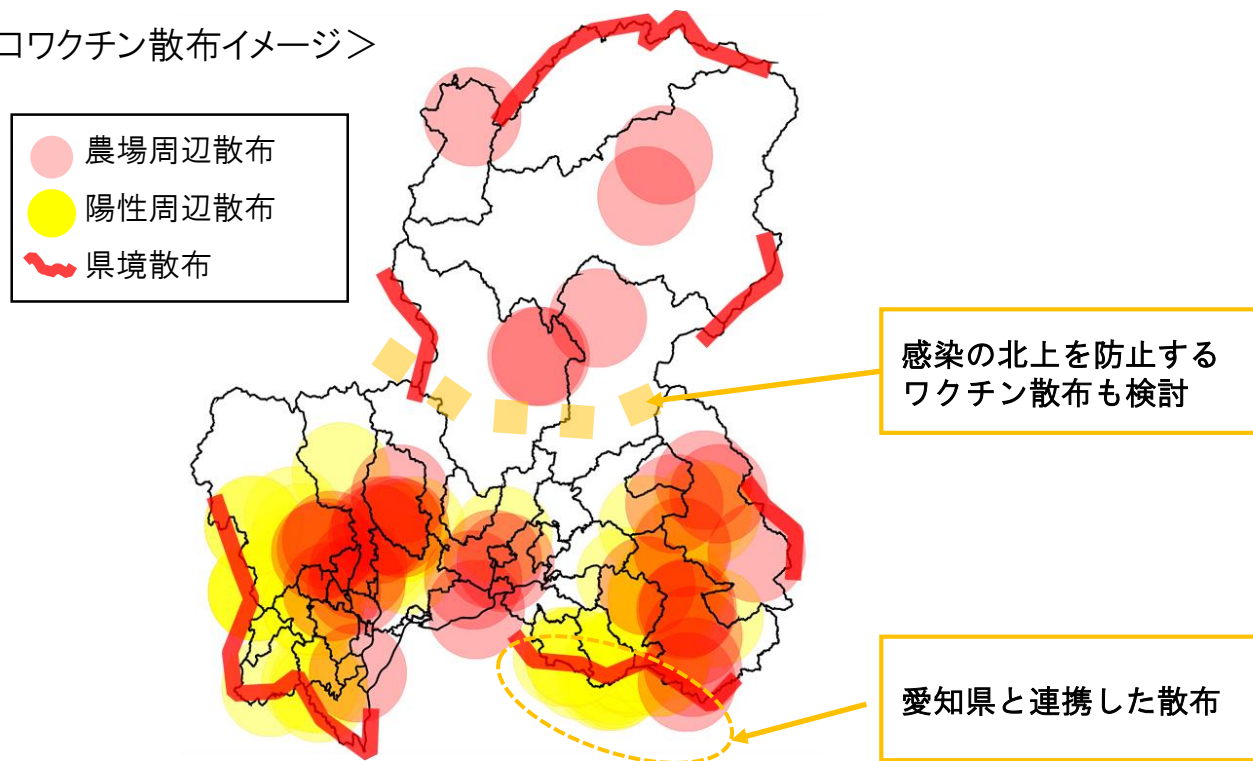
### ① 経ロワクチン散布方針(案)

農場周辺や県境付近を中心(特に県南部地域)に、重点散布を実施するとともに、散布地点の見直しや散布手法の検討といった「摂食率の向上にむけた取組み」を継続。

### ② 経ロワクチン散布方法

- 年間2期4回の散布を実施。
- 散布地点の増加などにより、引き続き、農場周辺・県境・感染いのしし確認地点周辺に重点散布。特に、多治見市、土岐市、恵那市の県境付近では、愛知県と連携したワクチン散布を検討。

<令和5年度の経ロワクチン散布イメージ>



## (4) 令和5年度の「野生いのしし対策」(経ロワクチン散布)

### ③ 散布地点の変更

- ・ 摂食状況調査による散布地点変更を実施。
  - 今年度の摂食状況調査と野生いのししの痕跡記録をもとに、散布地点の変更を実施。
  - 変更後の散布地点も含め、ワクチン殻の摂食痕による摂食状況調査を継続。

#### <県北部地域の摂食地点割合>

散布時期			調査 地点数	摂食痕あり 地点数	割合
前期	1回目	(5/1~15)	799	195	24.4%
	2回目	(6/22~26)	801	390	<b>48.7%</b>
後期	1回目	(9/15~19)	769	268	34.9%
	2回目	(10/19~23)	768	245	31.9%

#### <県南部地域の摂食地点割合>

散布時期			調査 地点数	摂食痕あり 地点数	割合
前期	1回目	(5/1~15)	850	220	25.9%
	2回目	(6/22~26)	889	337	37.9%
後期	1回目	(10/19~23)	926	486	<b>52.5%</b>

- ・ 年間をとおして(北部散布4回、南部散布3回)、一度も摂食が確認されていないのは、  
1,826地点中 484地点(26.5%)。  
(北部:833地点中212地点(25.5%)、南部:993地点中272地点(27.4%))
- ・ 野生いのししの痕跡記録の分析も進め、地点変更を優先的に検討。

# (4) 令和5年度の「野生いのしし対策」(経ロワクチン散布)

## ④ 摂食率向上にむけた取組み

- 中型哺乳類(タヌキ、アライグマなど)による盗食防止のための散布手法の検討も継続。
  - 今年度の実証結果から、改良した散布器具(ベイトステーション)や新たな散布方法を試行。
  - 他地域への横展開など、散布現場への適応可能な方法にブラッシュアップ。

### 【令和4年度 摂食率向上実証試験の結果】

目的 「① 中型哺乳類及び鳥類によるワクチン摂食を妨げるベイトステーションの検証」  
 「② 野生いのししを効果的に誘引する誘引餌の検証」

概要 実施期間：令和4年8月22日～9月16日(3期間に区切って検証)  
 実施場所：瑞浪市内の30地点

#### ① 「カサ」「ザル」を用いた吊り下げ式ベイトステーション及び設置高の検証

- ・カサ方式 → いのししによる摂食なし
- ・ザル方式 → 設置高80cm以上で他動物の摂食が減少。  
 ただし、支柱とした木を登って、アライグマが摂食。  
 2週間ほどかけて器具に慣れさせることがポイント。

高さ	地点数	成獣	幼獣	アライグマ	タヌキ	アナグマ	ネコ
60	5	◎	×	◎	×	◎	—
70	8	◎	◎	◎	△	◎	◎
80	7	×	×	◎	△	×	×
90	5	×	×	◎	×	×	—
93	1	◎	×	◎	△	—	—
100	1	×	—	◎	×	×	—

◎ザルからの摂食 ×撮影されたが摂食なし — 撮影なし △地面に落ちていたワクチンを摂食

- #### ② コーンとヌカ及びそれらへの添加剤(醤油・片栗粉)で誘引
- 統計的に有意な差はなし

### 【継続実証項目(R5予定)】

#### 【改良型ベイトステーション】



支柱がない  
吊り下げ

#### 【新たな埋設・散布手法】



ブロックの利用



ザル埋設による  
横からの穴掘り防止



大型の置石による  
盗食防止

# 議題3 その他 報告事項等

---

# (1) ジビエ利用再開後の現状と課題

## ① ジビエ事業者再開申出状況

- 「【岐阜県版】野生いのししジビエ利用マニュアル」を令和4年8月1日に発出。
- 現在、8事業者が再開（R5年1月末現在）。13頭を検査。すべて陰性。

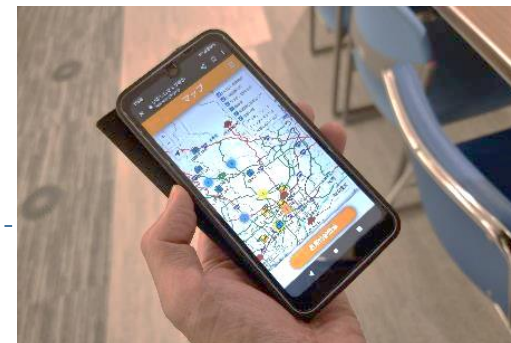
	処理施設の名称	所在地	検査数
1	ジビエトミノ	関市	3件
2	ジビエ工房めいほう	郡上市	6件
3	苗木ジビエ	中津川市	3件
4	飛騨狩人工房	高山市	0件
5	自然派工房ほたる	恵那市	0件
6	野生獣肉解体処理 Bambi	飛騨市	0件
7	猟師29	飛騨市	1件
8	一般社団法人 郡上地美恵	郡上市	0件

## ② 課題

- 37施設（※）中、8施設しか申請・承認が進んでいない（約21%）のは、豚熱感染が継続的に確認されていることや、豚熱の防疫対策に係る資材費等の負担が大きいことが主な要因。  
※ジビエ処理施設のうち、イノシシを取り扱うこととしている施設。令和3年度岐阜県健康福祉部生活衛生課・岐阜市保健所調べ)
- 陽性個体の確認の増加に伴い、「豚熱陽性高率エリア（捕獲個体の搬入を自粛するエリア）」の設置頻度及び範囲が増加。一部施設では、営業活動を一時休止せざるを得ない状況。  
→ 野生いのししの陽性確認状況などを踏まえ、将来的には「豚熱陽性高率エリア」の見直しも検討。

## (2) 「いのししマップぎふ」の改善

- 野生いのししの捕獲情報の報告や豚熱陽性高率エリアの確認などのために活用されている捕獲情報記録アプリ「いのししマップぎふ」について、ユーザーアンケートを実施。
- 対応可能な部分について、アプリの改善を実施中。  
令和5年4月リリース予定。

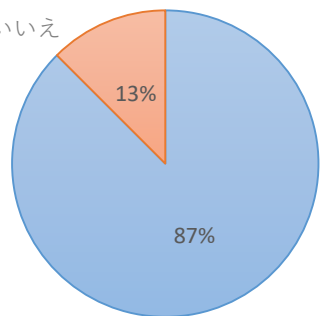


### 【「いのししマップぎふ」ユーザーアンケート】

調査日：令和4年12月

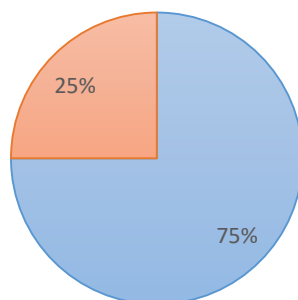
回答数：40件

■ はい ■ いいえ



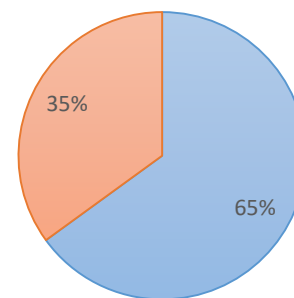
Q1 電話やFAXに比べ、捕獲報告が楽になったか？

- 操作が簡単。手間が省けるようになった。
- 場所や時間に関係なく報告できる。
- 写真データが送れる。
- 過去の実績が確認できる。
- ×動作が遅い。
- ×検索が使いにくい。



Q2 データ入力は簡単か？

- 操作が簡単。手間が省けるようになった。
- 視覚的に登録・入力ができる。
- ×動作が遅い。
- ×一覧の修正や削除ができない。
- ×登録項目の順番が入力しにくい。



Q3 マップは見やすいか？

- 拡大できるようになり分かりやすい。
- 位置情報も含めた情報共有ができる。
- ×動作が遅い。
- ×アイコンが重なり、見にくい。
- ×凡例の枠が邪魔して地図が見えない。



視認性を上げるためのアイコンの大きさや色などの改善、情報項目の追加などの改修。